

【出題意図】

近年、熱中症に対する啓発が盛んになったが、亡くなる方や救急搬送の報道を目にする機会は少なくない。身近な問題でもあり、一定の知識と考えを持っている話題であると思われるが、具体的なデータまでは把握してはいないであろうと考え、資料から問題点を見いだす問題として出題した。

【評価のポイント】

以下のポイントに言及している ※に言及していたら加算

1) 熱中症の発生傾向についてまとめられている

①気温の上昇に伴い増加している、今後も増加すると想定される

※2010年代に一度減少しており啓発活動の効果と考えられている

②救急搬送の6割近く、死亡者の8割が高齢者、搬送された65%は軽症→35%は入院が必要

※令和6年の救急搬送人員は約676万5000人、熱中症の搬送は1.4%

高齢者において重篤となりやすいが全年代にリスクはある

※作業場、乳幼児・小児などのリスク

③住居(自宅)での発生が約4割

屋外での運動や作業ではない場面でも発生する

2) 熱中症は予防可能

①熱中症予防対策

暑さを避ける、こまめに水分を補給する

※熱中症指数、WBGT値、生活環境、睡眠

②啓発活動が行われているが発生が増加している

※現在の熱中症対策の改善点

※熱中症の応急処置、治療方法

以上のポイントを考慮し「令和8(2026)年度大学院入試小論文 評価基準ルーブリック」により、「課題の理解および自らの考え」「根拠に基づく論理構成」「日本語の正しさ(誤字・脱字)」「体裁・文字量」の4カテゴリーに基づいて評価する。

受験番号	
------	--

日本赤十字東北看護大学大学院
看護学研究科 看護学専攻 修士課程

令和8年度 第I期入学者選抜 試験問題

【小論文】

【注意事項】

- 1 制限時間は60分です。
- 2 受験番号は、この表紙と解答用紙の全てに記載してください。
- 3 質問があるときは、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙および問題文とも、持ち帰ってはいけません。

【問題】

年々日本の平均気温は上昇しており、夏の暑さが厳しくなっています。熱中症の発生は、気温の変化に直接連動するわけではないとされていますが、この20年間で熱中症による死亡者数が約5倍になっています。

近年、熱中症による死亡の8割は高齢者ですが、令和6年における職場での熱中症による死傷者(死亡・休業4日以上)は1,257人で死亡者数は31人となっています。令和6年には熱中症により救急搬送された方が97,578人にのぼり、平成20年に調査開始して以降、最多となりました。

資料を参考に、この状況について、問題点をまとめ、あなたが考える対策について、合わせて800字以内で述べてください。

資料の出所

日本における熱中症による年間死亡者数の推移 人口動態調査(厚生労働省)、日本の平均気温偏差(気象庁)

全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト(<https://www.jccca.org/>)

熱中症による死亡数 人口動態統計(確定数)より(厚生労働省) 令和6年9月17日

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/necchusho23/index.html>

年齢(5歳階級)別にみた熱中症による死亡数の年次推移(平成7年～令和5年)(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/necchusho23/dl/nenrei.pdf>

令和6年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況(確定値)(厚生労働省)

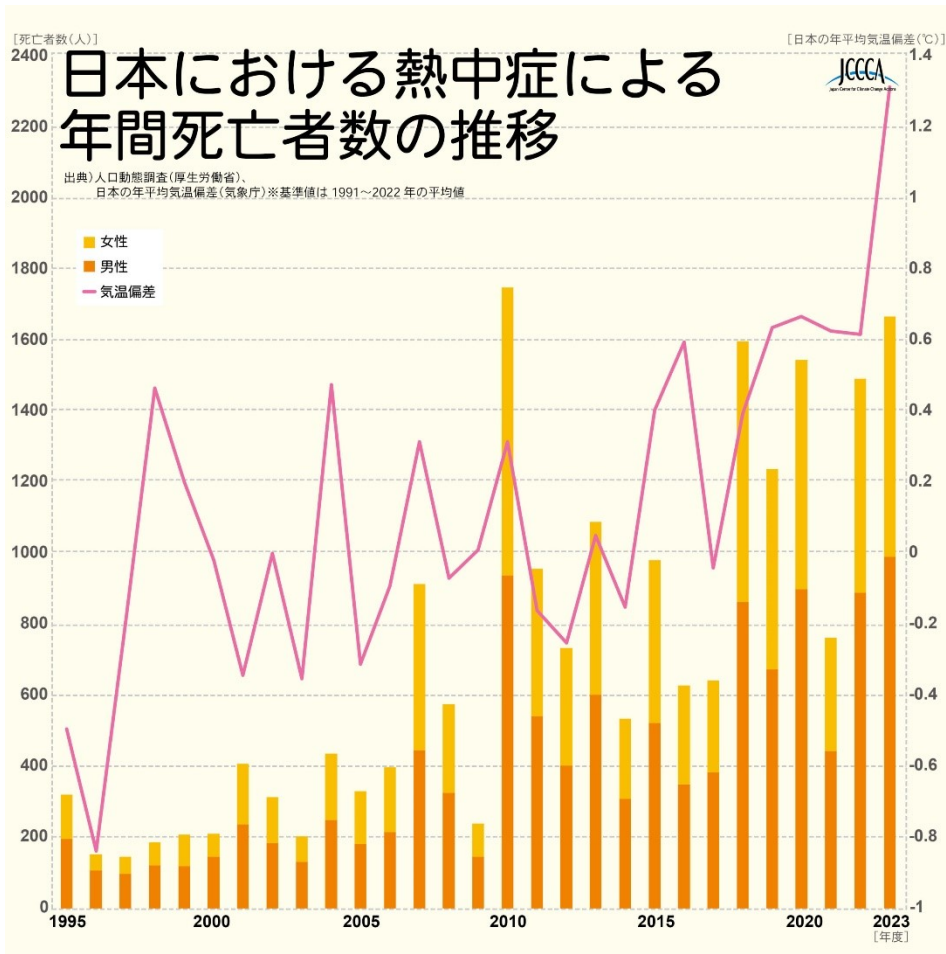
<https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001496511.pdf>

総務省消防庁 熱中症情報 救急搬送状況

<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html>

熱中症対策リーフレット

https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/items/heatstroke003_leaflet.pdf



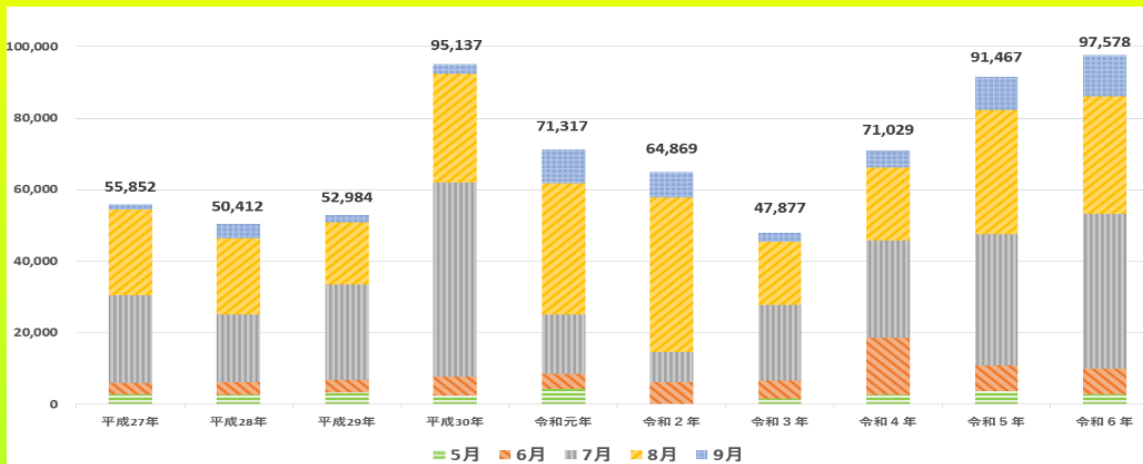
年齢(5歳階級)別にみた熱中症による死亡数の年次推移(平成7年~令和5年)
~ 人口動態統計(確定数)より

年齢	令和5年 (2023)	4年 (2022)	3年 (2021)	2年 (2020)	元年 (2019)	平成30年 (2018)	29年 (2017)	28年 (2016)	27年 (2015)	26年 (2014)	25年 (2013)	24年 (2012)	23年 (2011)	22年 (2010)	17年 (2005)	12年 (2000)
総数	1 651	1 477	755	1 528	1 224	1 581	635	621	970	529	1 077	727	948	1 731	328	207
65歳以上(再掲)	1 375	1 274	641	1 316	1 000	1 288	496	492	783	428	833	578	717	1 372	208	104
割合(%)	83.3	86.3	84.9	86.1	81.7	81.5	78.1	79.2	80.7	80.9	77.3	79.5	75.6	79.3	63.4	50.2

注: 1) 平成16・18・21~29年の都道府県からの報告漏れ(平成31年3月29日公表)による再集計を行ったことにより、平成29年(2017)以前の概況とは数値が一致しない箇所がある。

出典:「人口動態統計」

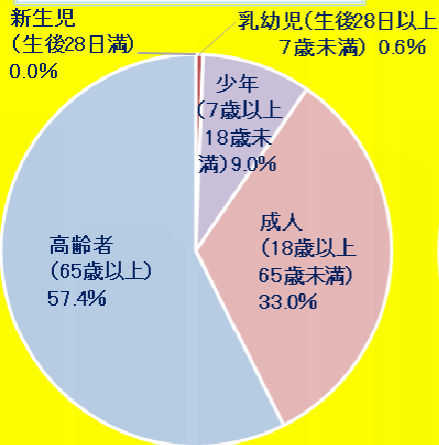
熱中症による救急搬送人員（平成27年～令和6年）※5～9月の調査集計（R2年は5月集計なし）



熱中症による救急搬送人員の内訳（令和6年）※5～9月の調査集計

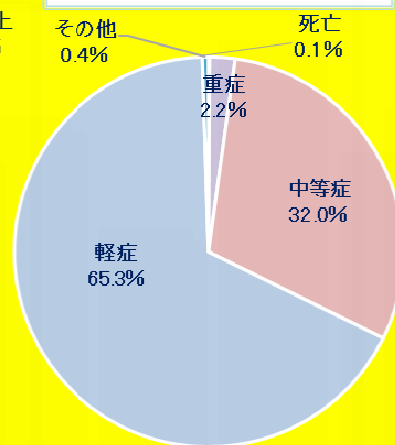
【年齢区分別】

高齢者が半数以上を占めています。



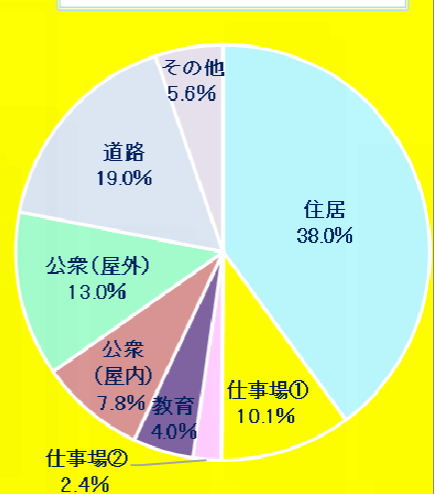
【初診時における傷病程度別】

全体の約3割の方は入院（重症・中等症）が必要でした。



【発生場所別】

住居（敷地内全てを含む）での発生が約4割を占めています。



(注) 端数処理(四捨五入)のため、割合・構成比の合計は100%にならない場合がある。